

2021年度が始まりました

皆さんこんにちは、すっかりZOOMでの会にも慣れ、こうして全国の支部長並びに理事の皆様と画面を通してではありますが、お目にかかれること大変うれしく思います。

　2020年度の総会は紙面による開催・議決でしたがその時には、1年後には対面での総会ができるのではないかと期待しておりました。ですが残念ながらコロナウイルス感染症が収まることを知らない状況下であります。

東京オリンピック・パラリンピックの延期、緊急事態宣言による自粛生活などに始まり、本会も兵庫での研究大会の延期・愛知教育経営研修会の誌上開催・その他リモートによる研究会などに変更して対応しながらも会の事業を止めることなく進めてまいりました。

　各支部・各幼児教育施設におかれましても、会員並びに先生方が体を張り、頭脳を働かせて大切な子供たちの幼児期という「時」を止めないように努力をしてくださっていること本当に感謝しております。

時というのは戻すことができません。子供たちにとっては学びの多い大切な時です。この事態はまだまだ続くのではないかと思いますので、どうか時を戻さず、時を止めず、時を進めていただけますようにお願いいたします。

　まだ先の見えない今ですが、本日は総会を開催しまして、今年度の全幼研が前へ進んでいかれますように議事を進行してまいります。

会計の報告でお示ししますが、昨年度は収入のもとになる会費、事業による収入が激減しました。今年度も規模を縮小しての研究大会・免許更新の講習の中止などにより大幅な赤字が見込まれます。そこで今年度はワクワクプロジェクトを一時中止とさせていただきます。また来年度2022年度より会費を1000円値上げさせていただきたいと思います。本会の会費はどこの研究団体と比べても安く参加しやすい金額でしたが、消費税導入の時にも値上げを見送っておりましたので、法人理事会でも承認いただき来年度から値上げとさせていただきます。

　この事態が収まればまた今まで通りの事業が開催できるものと予測はしておりますが、しばらくは皆様には我慢の時を共に耐えていただき、未来に向かって時を進めていきたいと思います。

お願いばかりで申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

そして、地球の未来を共につくり、さらに「AIの時代をたくましく人間らしく生きていくこどもたちの育ち」を願い、来年の70周年記念東京大会に向かって全力で邁進していくことを誓い、簡単ではありますがご挨拶とさせていただきます。

　総会に引き続き、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長大杉住子氏より、ご講演をいただきました。2月に引き続きのご講演でしたので、会員も期待して聞かせていただきました。コロナ禍での私たちの生活と子供たちの学び、働き方や生活様式が大きく変化したことにより、五感を通して感じるより視覚がメインになるというお話から始まり、幼児教育をどう考えていくかをそれぞれが考えながら聞き入っていたと思います。

　「保幼小の架け橋プログラム」という新しい施策にも触れていただき、あっという間の90分でした。参加者からの感想をいただいていますので、後日ご紹介する機会があると思います。ありがとうございました。

理事長　福井　直美



ホワイトボードに書かれた文字

自動的に生成された説明